



なのみ通信

令和7年度 筑前町立東小田小学校 学校通信 8月6日 第6号

自らチャレンジする子どもの育成

7月・8月の6日間、PTA・おやじの会による「夏休み多目的ホール開放」が行われました。紙コップタワーや割り箸鉄砲等、多くの子どもたちが、「遊び」を通して、様々な「記録」にチャレンジしました。



1年生3人組、21段！その後23段達成！！

自らチャレンジする「なのみっ子」

～ 一学期の子どもたち ～

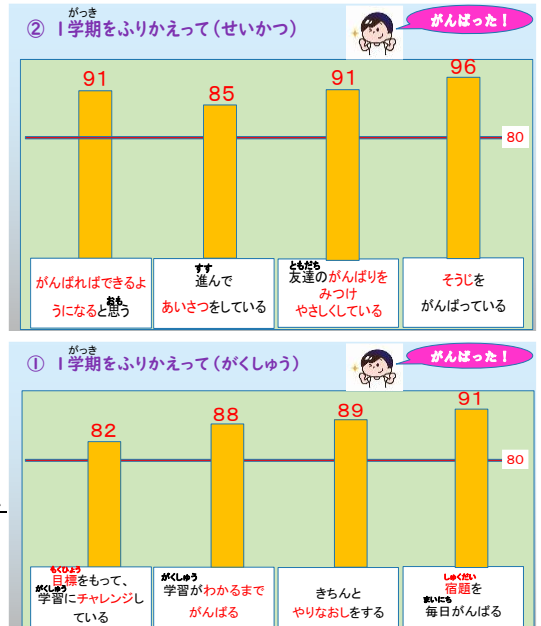
7月18日に終業式を行った際、1年生から6年生までの1学期の様子や頑張りについて、写真やグラフを基に子どもたちに紹介しました。特に、児童アンケート結果から、肯定的評価をしている割合が80%を超えている項目がたくさんあり、子どもたちの「チャレンジ」にとてもうれしくなりました。もちろん、否定的な回答をしている子どもも数名います。その子たちのこともしっかり捉え、子どもたち一人一人を大事にした教育活動に今後も努めていきたいと思ひます。

また、学期末には、保護者の皆様にもアンケートにご協力いただきありがとうございます。保護者のみなさまから頂いたご意見の中から、全体で共有させていただきたい内容について今後の対応をお伝えします。

○和式トイレを洋式トイレに改修する件につきましては、教育委員会とも共有し、来年度以降改修工事を行う予定です。

○ニュース等で報道されている教職員の不祥事に関する対応につきましては、職員の不祥事防止に対する意識の醸成をさらに図ると共に、個人用スマートフォン等の端末を使って、児童を撮影しないこととしました。

その他、ご意見いただきました内容につきましては、今後の教育活動の改善に活かしていきたいと思ひます。これからも暑い夏休みが続きます。事件・事故等、安全面には引き続き、ご家庭での声掛けをよろしくお願い致します。また、夏休み終わりから新学期にかけては、不安や悩みを抱えている子どもがいるかもしれません。その時期につきましては、特に、お子さまの様子を気にかけていただきますよう併せてお願い致します。



その一つが、私の畑で大きく育っています。今から27年前、30cmほどの小さな苗をいただきました。今では、写真のように大きな大木となっています。

今から30年程前、このクスノキのことを伝えたいと思った、長崎市の中学生が、被爆クスノキの種を拾い、苗を育てる活動を始めました。それが「被爆クスノキ二世」です。この被爆クスノキ二世は、平和を伝える使者として全国各地に植樹されていきました。

この歌は、歌手 福山雅治さんの楽曲「クスノキ」の冒頭部分です。80年前に被爆した二本のクスノキが、平和を伝えるシンボルとして、今も長崎市山王神社の境内にたたずんでいます。被爆に耐えながらも生き続けた二本のクスノキは、命の大切さ、平和の大切さ、そして生きることの大切さを伝えていきます。

受け継ぐ平和への思い
「被爆クスノキ二世」
「我が魂は この土に根ざし 決して朽ちずに 決して倒れずに」
この歌は、歌手 福山雅治さんの楽曲「クスノキ」の冒頭部分です。80年前に被爆した二本のクスノキが、平和を伝えるシンボルとして、今も長崎市山王神社の境内にたたずんでいます。被爆に耐えながらも生き続けた二本のクスノキは、命の大切さ、平和の大切さ、そして生きることの大切さを伝えていきます。

今日は、出校日でした。各学級では、平和についての学習が行われました。また、大刀洗平和記念館朗読部会の方をお招きし、戦争に関わる本の朗読を全校児童にいただきました。子どもたちの心に「平和・命」の大切さが育まれることを願っています。さて、お盆前後まで、戦争や平和、もしかしたら「被爆クスノキ」についてメディア等で触れられる機会が多くなるかと思ひます。ぜひ、ご家庭でも話題にしたいだけなら幸いです。戦後を生きた私たちが、平和な社会の実現をめざし、受け継ぎ発信していかなくてはと思います。

世界各地では、今なお紛争や戦争があつていきます。その争いの中で多くの命が奪われています。「被爆クスノキ」が伝えてくれている「命・平和・生きること」の大切さは、今を生きている私たちが、次の世代に伝えていかなければならないことだと感じます。

多くの人がこの近くを通ることはないのですが、散歩される近所の方が立ち止まって見ていただけたらと思ひ、令和5年に説明の看板を設置しました。この「被爆クスノキ二世」に一番思いを馳せているのは、私の父（八三歳）です。父の父、つまり私の祖父は20代の若さで戦死しました。父親の記憶があまりない私の父から、「戦争さえないかったら」と心の声がいつも聞こえてくるようです。